

# みずほ経済・金融ウィークリー

2022.5.24

みずほリサーチ&テクノロジーズ



## 先週の内外経済・金融市場動向・評価 & 今週の注目点

### 【先週の内外経済・金融市場動向・評価】

- 世界の新規感染者数は増加。アジア太平洋地域の感染がピークアウトする一方、米国の再拡大が鮮明に。日本は5月連休明けの検査増による感染リバウンドが一服。政府は水際対策の緩和を発表
- 米国の4月小売売上高は高インフレ下でも堅調。住宅着工にも金利上昇による大きな落ち込みはみられず。ユーロ圏の4月の消費者物価は前年比+7.4%と高水準で推移。とりわけ、東欧諸国を中心にインフレ高進が鮮明。中国の4月新築住宅価格(70都市平均)は前月比▲0.3%と再び低下幅が拡大。感染による販売不振が影響
- 日本の4月全国コア消費者物価指数(除く生鮮食品)は、消費増税時を除くと2008年以来の前年比+2%超え。エネルギーや食料の価格上昇が物価を押し上げ
- ダウ平均は、米大手小売企業がコスト高を背景に低調な決算と業績見通しの下方修正を発表し、コスト高による企業業績圧迫懸念から、一時2020年6月以来の大幅な下落幅となり年初来安値を更新。足元はやや反発

### 【今週の注目点】

- 米国の4月のコアPCE(個人消費支出)デフレーターは前月から若干鈍化するものの、高止まりと予想。5月FOMC議事要旨はパウエル議長が示唆した利上げパスを再確認する内容になる見込み
- 日本の5月都区部コア消費者物価指数(除く生鮮食品)は、食料の値上げが主な押し上げ要因になり、前年比+2%を超える伸びが続く見込み

## 《目次》

---

### ＜新型コロナウイルス関連＞

世界の感染動向 P 3

日本の感染動向 P 7

中国の感染動向 P11

### ＜各国経済・金融政策・政治＞

米国 P14

欧州 P15

中国 P16

アジア P17

ウクライナ情勢 P20

日本 P21

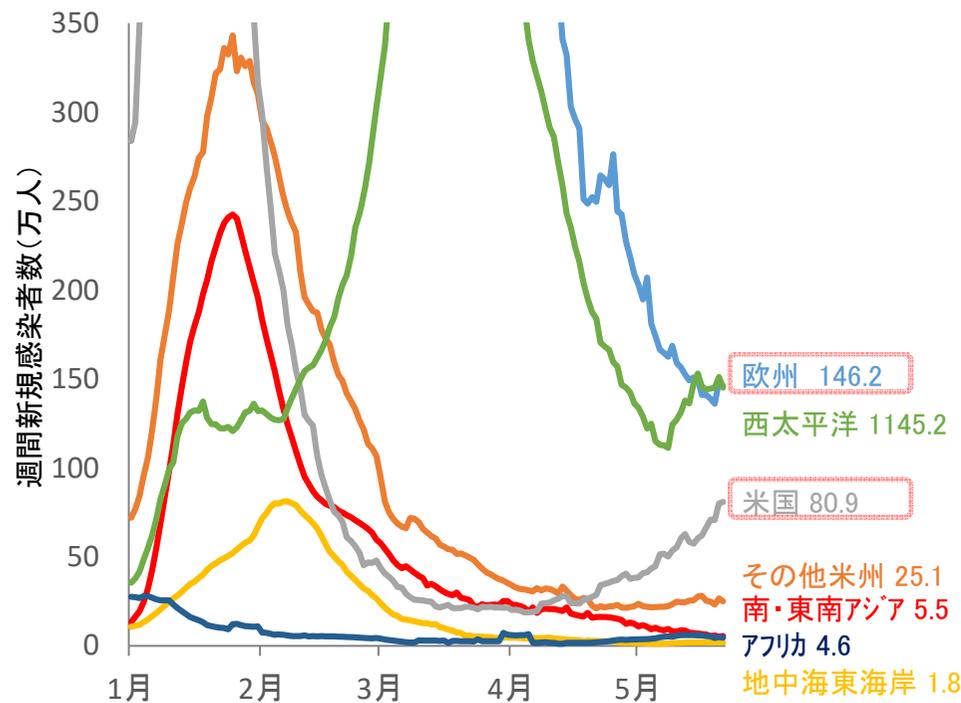
＜金融市場＞ P23

＜巻末資料(主要経済指標一覧・スケジュール)＞ P24

# 世界の感染動向：欧米を中心にモビリティが回復。新規感染者数は増加に転じる

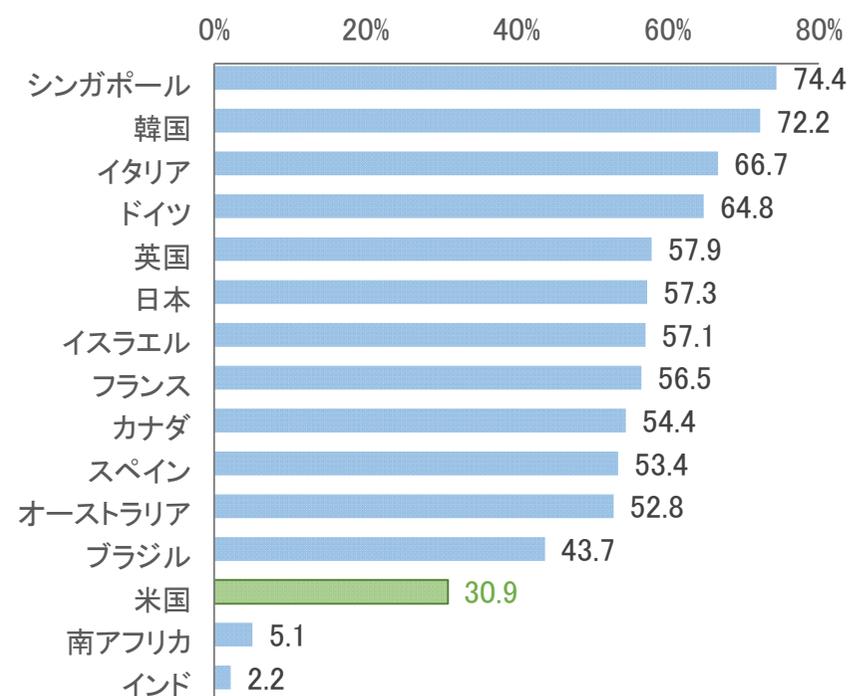
- 世界の週間新規感染者数は5/21時点で409万人(5/11時点:397万人)と増加
  - 台湾の感染拡大と日本の連休明けリバウンドが一服したことからアジア太平洋地域の感染がピークアウトする一方、米国の増加基調が鮮明に。欧州でも足元で減少ペースが鈍化。制限緩和にともなうモビリティの回復が一因
  - 米国では感染力が強いとされるオミクロン株亜種(BA.2.12.1系統)の拡大に加え、米国の3回目ワクチン接種率の低さ(全人口対比30%程度)も影響している模様

世界の週間新規感染者数(地域別)



(注)5/23集計値(直近データは5/21)。地域区分はWHO基準  
 (出所)Johns Hopkins University、WHOより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

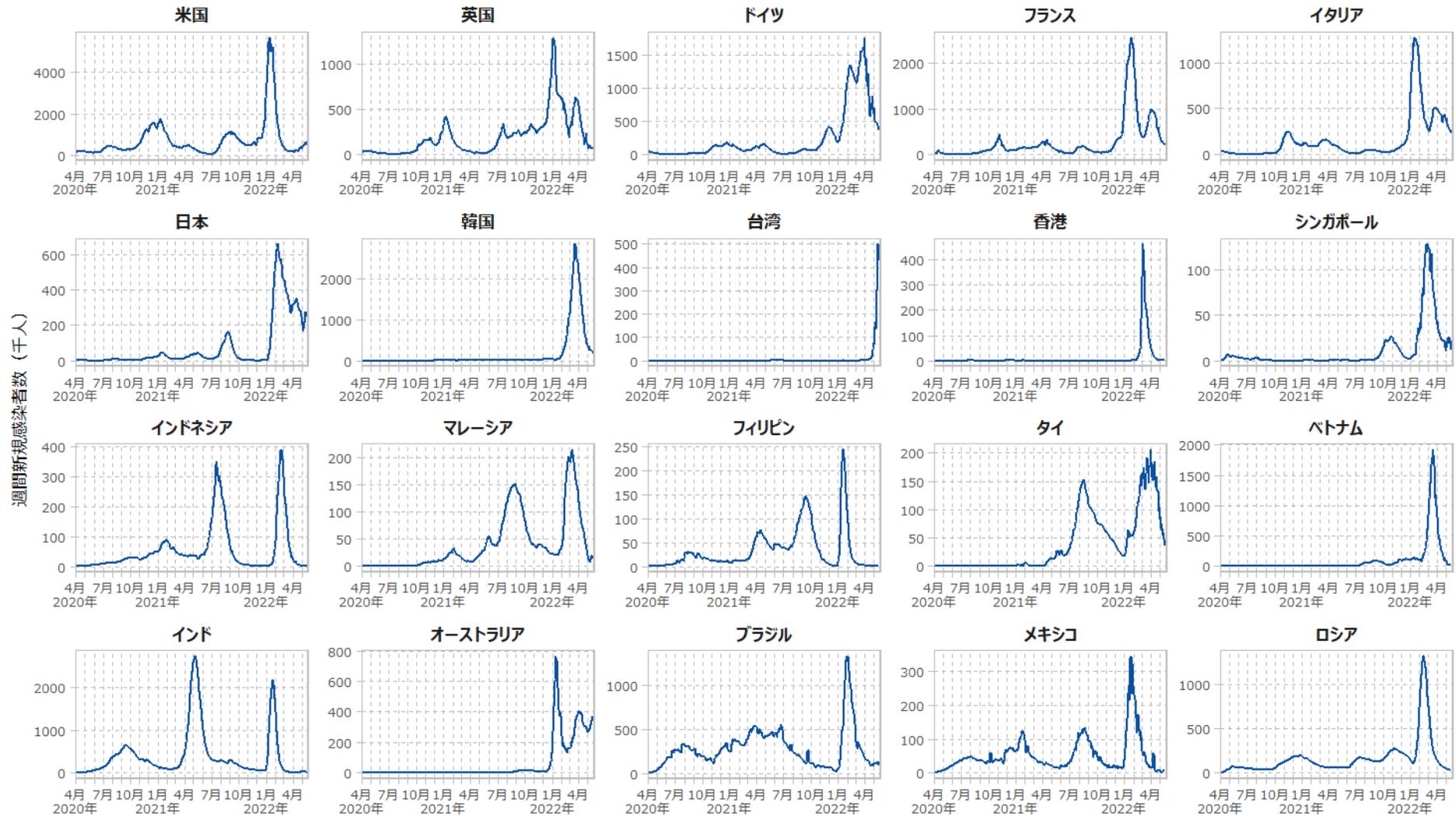
主要国の3回目ワクチン接種率



(注)5/22集計値(直近データは5/20)  
 (出所)Our World In Dataより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

# 世界の感染動向:台湾の感染急拡大が一服。米国は緩やかな拡大が継続

## 主要国の週間新規感染者数

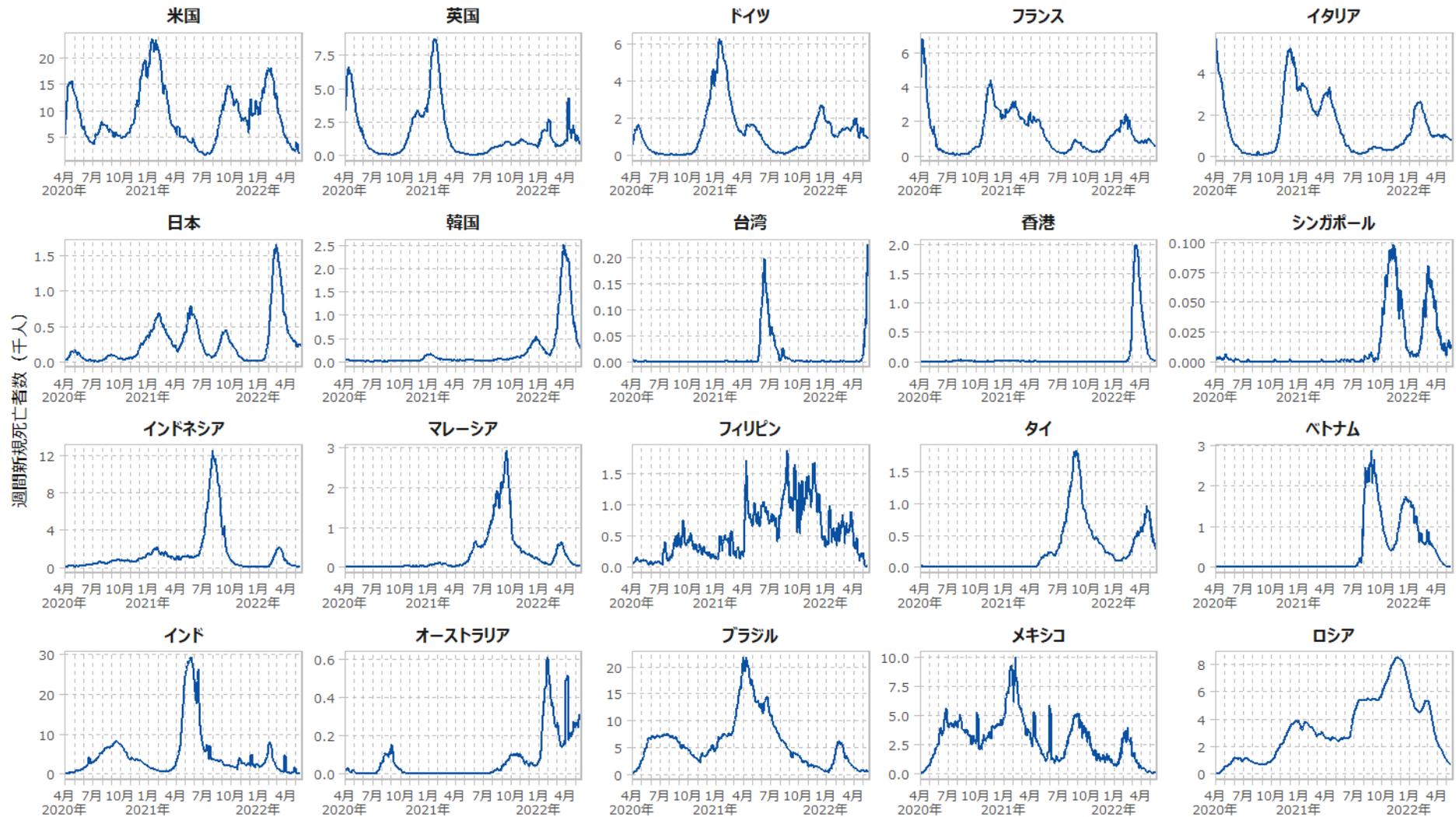


(注) 5/20時点集計値(直近データは5/18)

(出所) Johns Hopkins Universityより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

# 世界の感染動向:世界的に死亡者数が減少傾向

## 主要国の週間新規死亡者数

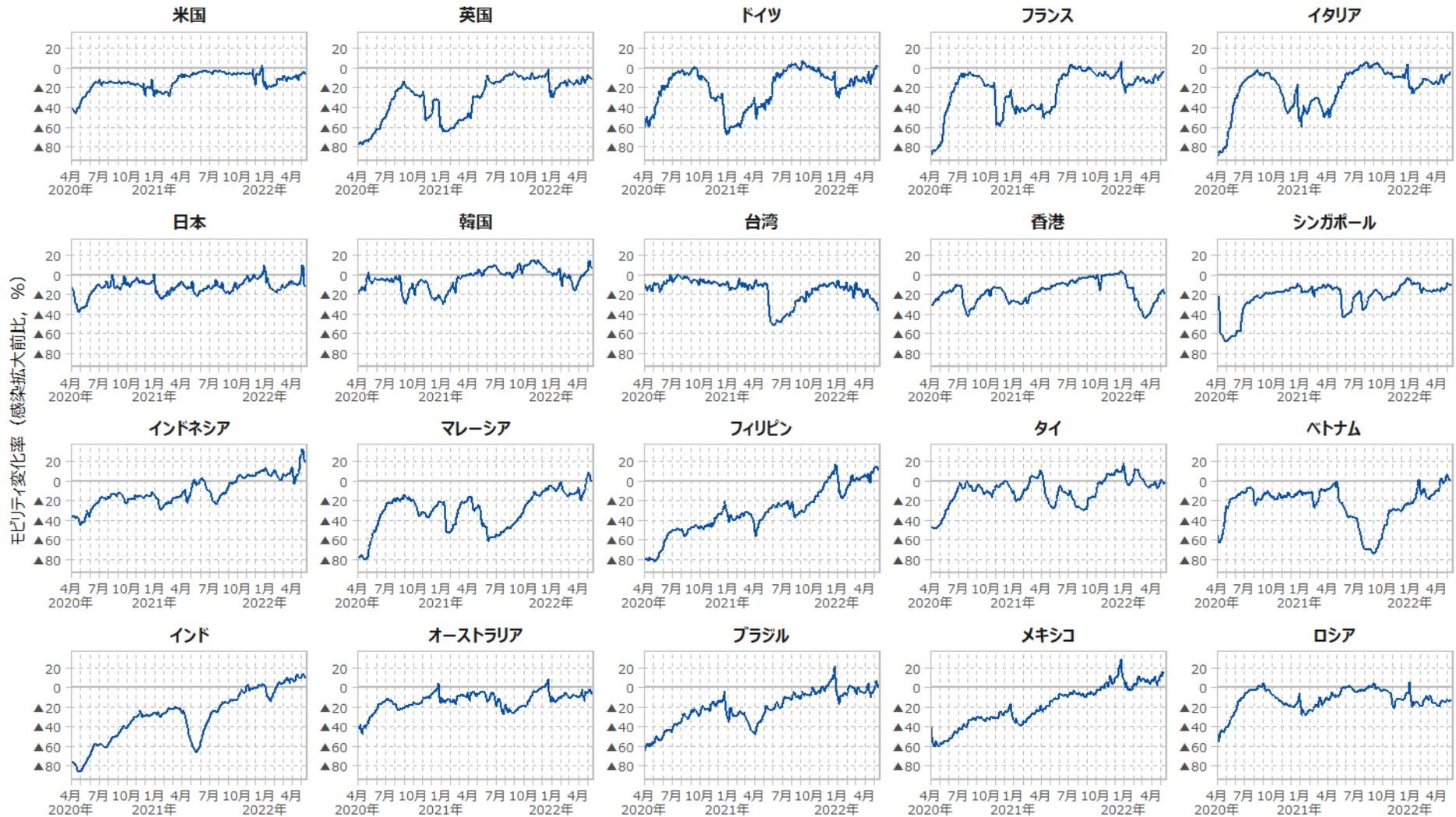


(注) 5/20時点集計値(直近データは5/18)

(出所) Johns Hopkins Universityより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

# 世界の感染動向：欧米・新興国のモビリティがコロナ禍前水準近傍へ回復

## 主要国の小売・娯楽モビリティ

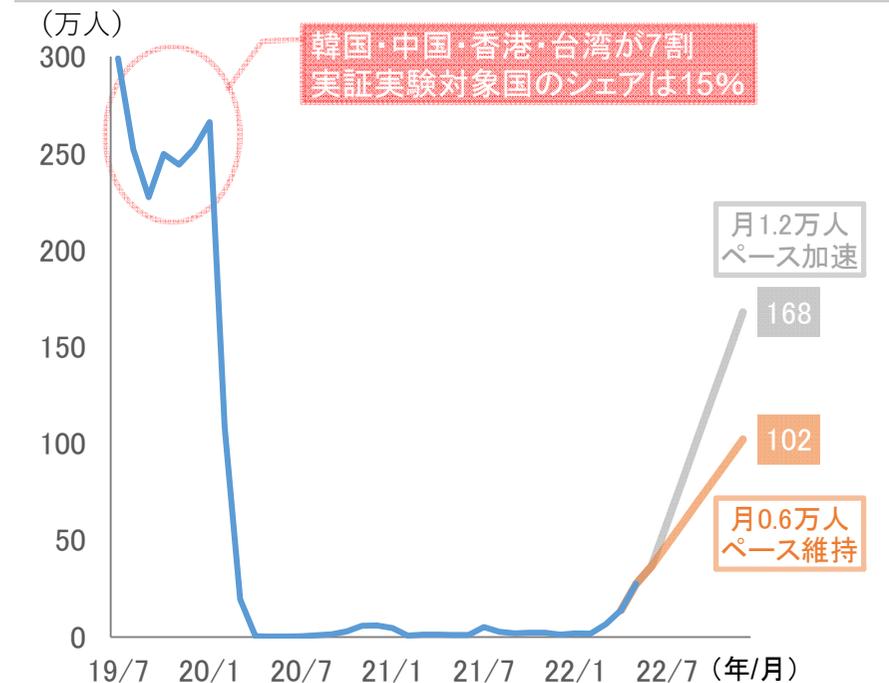


(注) 5/18更新版(直近データは5/16)。後方7日移動平均  
 (出所) Google LLCより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

## 日本の感染動向: 日本政府は感染状況の落ち着きを受けて水際対策の緩和を発表

- 連休明けの検査増によるリバウンドが一服。政府は水際対策の緩和を発表
  - 6月1日から入国者数の上限を1日2万人に引き上げるとともに、低リスク国からの入国者はワクチン接種の有無に関係なく入国時検査や待機措置が不要に
  - 観光客受け入れ再開に向けて米国・豪州・タイ・シンガポールから少人数の団体客を受け入れる実証実験を開始
- 現状の緩和ペースが継続された場合、年末の訪日外客数100万人程度にとどまる計算(ピーク時のおよそ1/3)
  - インバウンドの早期回復には入国者数の上限緩和・撤廃に加え、中国・韓国・台湾の団体客受け入れがカギ

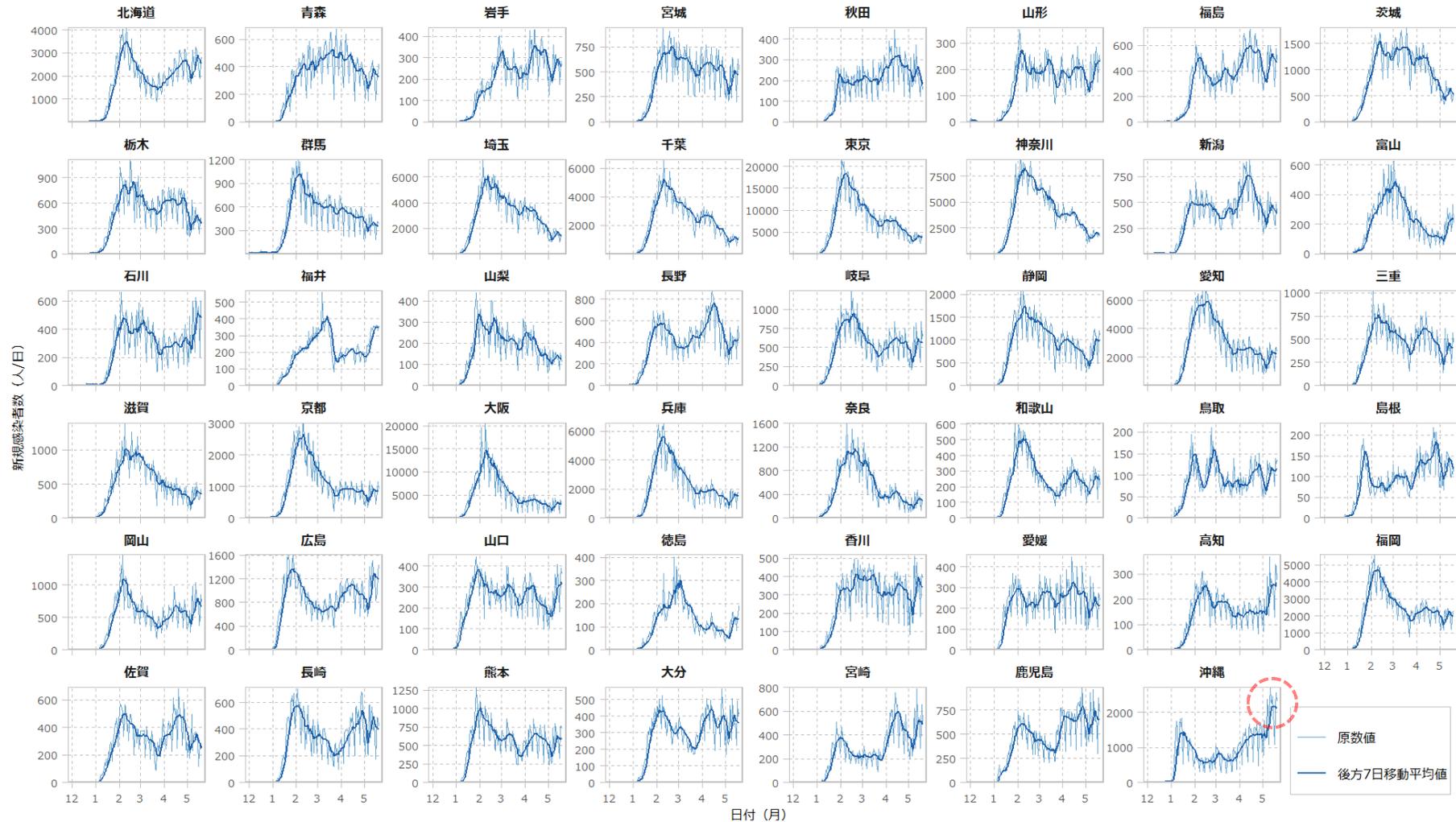
### 訪日外国人客数



(注) 入国者数の日本人と外国人の割合は4月実績(日本人4割:外国人6割)で先延ばし  
(出所) 日本政府観光局より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

# 日本の感染動向：都道府県別の新規感染者数

## ■ 全国的にリバウンドが一服。沖縄も足元で感染急増に転換の兆し

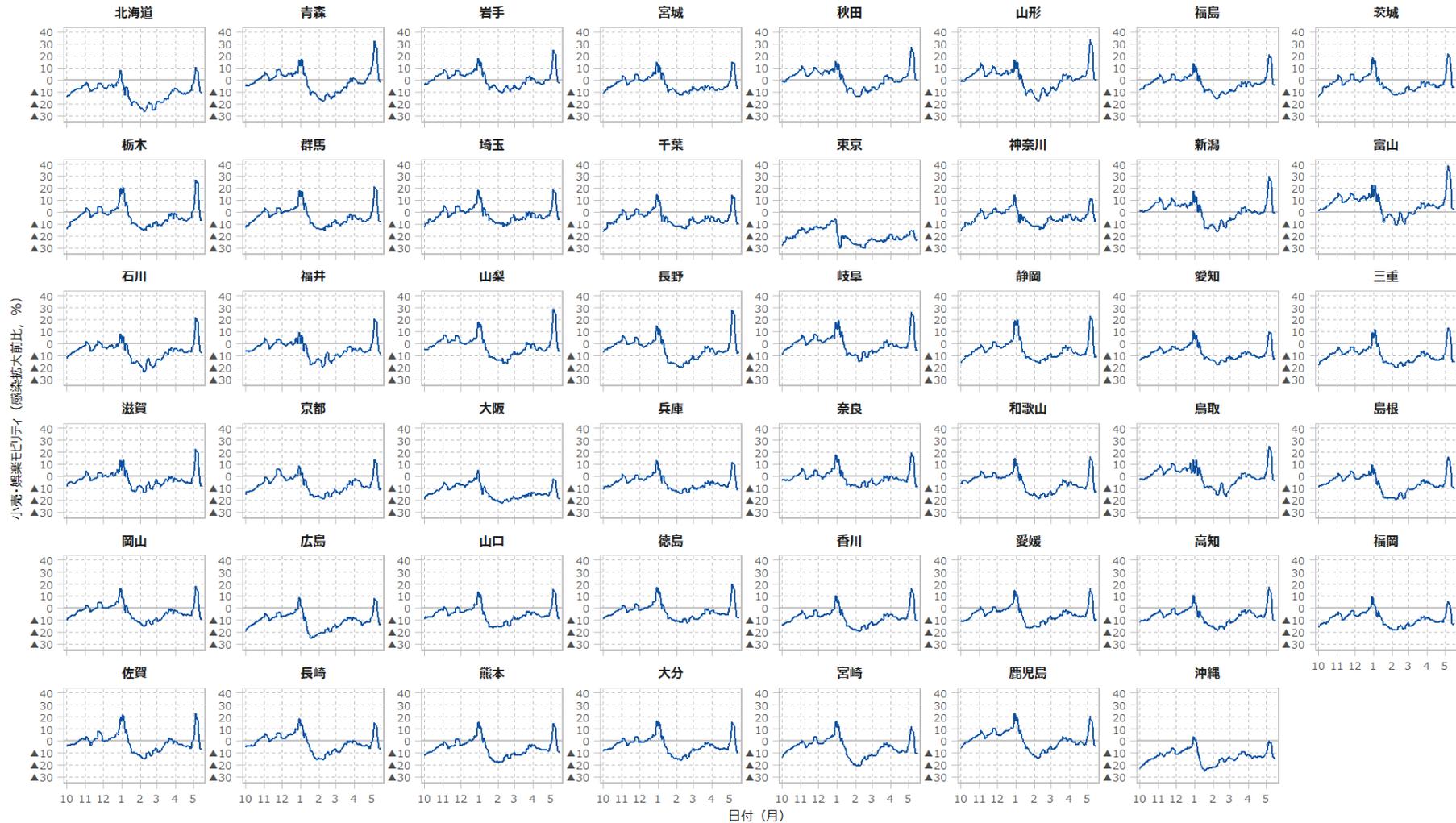


(注) 5/20時点集計値(直近データは5/19)

(出所) <https://covid-2019.live>より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

# 日本の感染動向：都道府県別の小売・娯楽モビリティ

## ■ 全国的に小売・娯楽モビリティが連休前の水準へ低下



(注) 5/18更新版(直近データは5/16)

(出所) Google LLCより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

# 日本の感染動向：都道府県別の入院病床使用率

- 入院病床使用率は全国的に落ち着いているが、沖縄では入院病床使用率が50%を上回る水準に

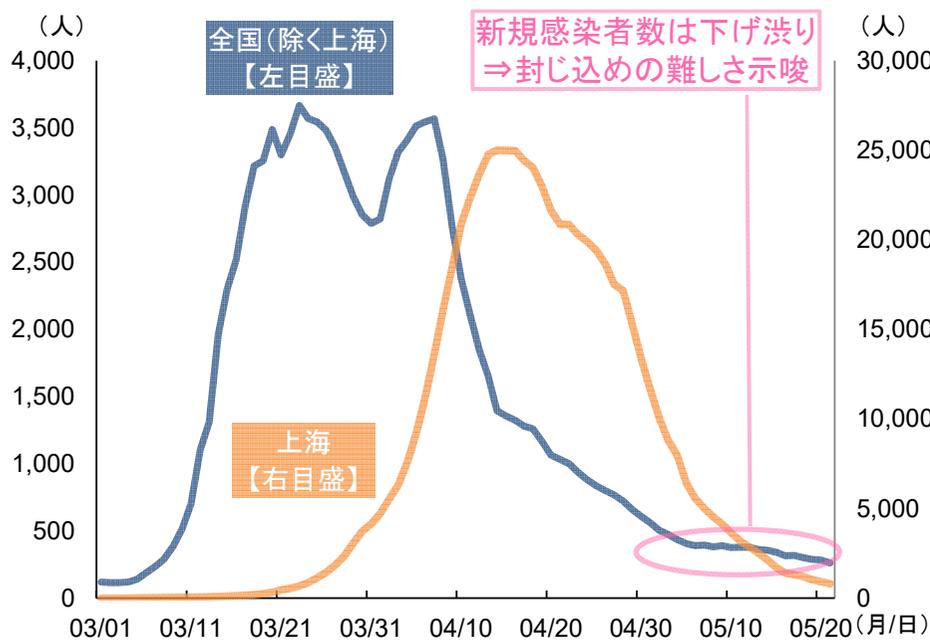
		入院確保病床の使用率 (%)															
		2022/1/26	2022/2/2	2022/2/8	2022/2/16	2022/2/23	2022/3/2	2022/3/8	2022/3/16	2022/3/23	2022/3/30	2022/4/6	2022/4/13	2022/4/20	2022/5/1	2022/5/10	2022/5/18
北海道・東北	北海道	24%	30%	31%	40%	37%	38%	36%	26%	20%	16%	18%	16%	16%	18%	18%	19%
	青森	21%	26%	36%	41%	48%	49%	49%	36%	32%	27%	27%	22%	22%	23%	22%	24%
	岩手	38%	58%	46%	46%	48%	43%	40%	37%	37%	22%	25%	25%	20%	16%	24%	26%
	宮城	16%	24%	32%	41%	47%	38%	30%	25%	23%	23%	18%	18%	20%	17%	18%	19%
	秋田			34%	28%	31%	37%	37%	25%	28%	27%	24%	21%	21%	31%	27%	24%
	山形	34%	32%	43%	41%	41%	31%	37%	37%	23%	30%	21%	23%	15%	17%	10%	16%
	福島	37%	43%	45%	48%	48%	45%	34%	28%	23%	32%	31%	31%	29%	29%	26%	32%
関東	茨城	25%	33%	32%	36%	47%	44%	35%	31%	30%	26%	22%	21%	15%	20%	13%	10%
	栃木	31%	36%	38%	43%	38%	38%	31%	26%	24%	22%	20%	23%	18%	19%	11%	13%
	群馬	54%	64%	60%	65%	56%	52%	47%	40%	38%	36%	33%	31%	29%	30%	26%	20%
	埼玉	48%	51%	57%	59%	59%	55%	52%	45%	40%	40%	36%	35%	31%	25%	22%	20%
	千葉	42%	63%	64%	68%	71%	64%	60%	51%	35%	28%	25%	24%	19%	16%	11%	12%
	東京	43%	51%	56%	58%	58%	52%	46%	37%	30%	26%	25%	27%	24%	20%	15%	15%
	神奈川	43%	55%	68%	71%	70%	69%	59%	50%	41%	34%	32%	29%	25%	23%	18%	18%
中部	新潟	28%	28%	28%	26%	28%	26%	23%	19%	17%	15%	15%	17%	19%	19%	14%	13%
	富山	27%	29%	32%	30%	31%	32%	30%	23%	17%	12%	13%	9%	5%	5%	11%	12%
	石川	54%	68%	65%	54%	37%	31%	31%	29%	23%	12%	13%	14%	16%	21%	22%	21%
	福井	15%	19%	21%	22%	23%	27%	27%	29%	23%	19%	13%	15%	16%	14%	15%	15%
	山梨			47%	70%	59%	60%	46%	36%	46%	43%	33%	30%	29%	25%	16%	19%
	長野	33%	41%	44%	37%	38%	33%	30%	24%	25%	20%	22%	22%	25%	26%	27%	22%
	岐阜	55%	66%	52%	56%	52%	43%	40%	37%	28%	20%	23%	27%	27%	25%	18%	28%
近畿	静岡	28%	43%	39%	49%	57%	44%	42%	25%	22%	13%	13%	15%	17%	9%	16%	14%
	愛知	23%	41%	57%	74%	68%	63%	59%	50%	41%	29%	23%	25%	25%	22%	22%	18%
	三重	35%	47%	49%	55%	53%	41%	37%	24%	25%	26%	21%	24%	19%	16%	14%	19%
	滋賀	49%	69%	69%	70%	74%	76%	68%	56%	45%	38%	29%	27%	29%	22%	19%	15%
	京都	41%	55%	59%	72%	71%	70%	60%	44%	42%	25%	24%	21%	19%	19%	17%	15%
	大阪	54%	70%	82%	83%	75%	72%	69%	55%	42%	28%	25%	28%	26%	21%	17%	20%
	兵庫	54%	67%	73%	76%	75%	67%	58%	48%	36%	26%	24%	27%	27%	23%	20%	19%
中国・四国	奈良			78%	73%	74%	65%	59%	60%	44%	33%	26%	24%	23%	11%	11%	16%
	和歌山		68%	65%	63%	54%	48%	34%	23%	20%	21%	35%	33%	28%	29%	25%	31%
	鳥取	25%	25%	24%	23%	24%	23%	24%	16%	14%	17%	13%	17%	15%	15%	17%	19%
	島根	38%	33%	30%	27%	24%	25%	34%	21%	17%	19%	15%	18%	15%	14%	9%	15%
	岡山	34%	44%	53%	55%	51%	42%	41%	24%	18%	15%	14%	25%	27%	21%	17%	23%
	広島	60%	53%	51%	56%	46%	42%	35%	24%	22%	20%	17%	29%	32%	33%	25%	30%
	山口	55%	44%	43%	42%	39%	37%	39%	35%	27%	25%	26%	34%	21%	17%	15%	28%
九州・沖縄	徳島	22%	32%	36%	35%	36%	34%	32%	25%	19%	17%	12%	14%	10%	10%	12%	14%
	香川	42%	33%	41%	53%	44%	35%	38%	38%	32%	33%	25%	24%	24%	22%	18%	26%
	愛媛	27%	37%	38%	32%	30%	29%	35%	27%	21%	16%	25%	24%	16%	17%	19%	17%
	高知	40%	40%	40%	44%	39%	39%	35%	30%	21%	25%	16%	17%	18%	18%	22%	28%
	福岡	26%	52%	70%	86%	77%	63%	54%	38%	32%	26%	25%	29%	28%	26%	21%	20%
	佐賀	35%	37%	36%	41%	37%	29%	33%	25%	19%	21%	23%	30%	31%	27%	23%	21%
	長崎	39%	40%	45%	40%	28%	30%	24%	22%	17%	14%	15%	20%	24%	26%	25%	25%
九州・沖縄	熊本	52%	79%	70%	59%	52%	47%	44%	38%	28%	23%	23%	31%	30%	26%	20%	25%
	大分	43%	41%	44%	37%	33%	33%	32%	30%	24%	24%	27%	23%	20%	24%	19%	22%
	宮崎	34%	36%	38%	39%	33%	39%	41%	27%	16%	11%	21%	23%	24%	26%	18%	23%
	鹿児島	39%	50%	45%	55%	48%	39%	43%	39%	32%	29%	27%	35%	38%	37%	24%	35%
	沖縄	64%	67%	58%	47%	42%	47%	40%	26%	27%	23%	34%	46%	47%	35%	48%	55%

(出所)内閣官房より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

# 中国の感染動向：散発的な感染継続。上海は制限緩和も物流の改善ペースは鈍化

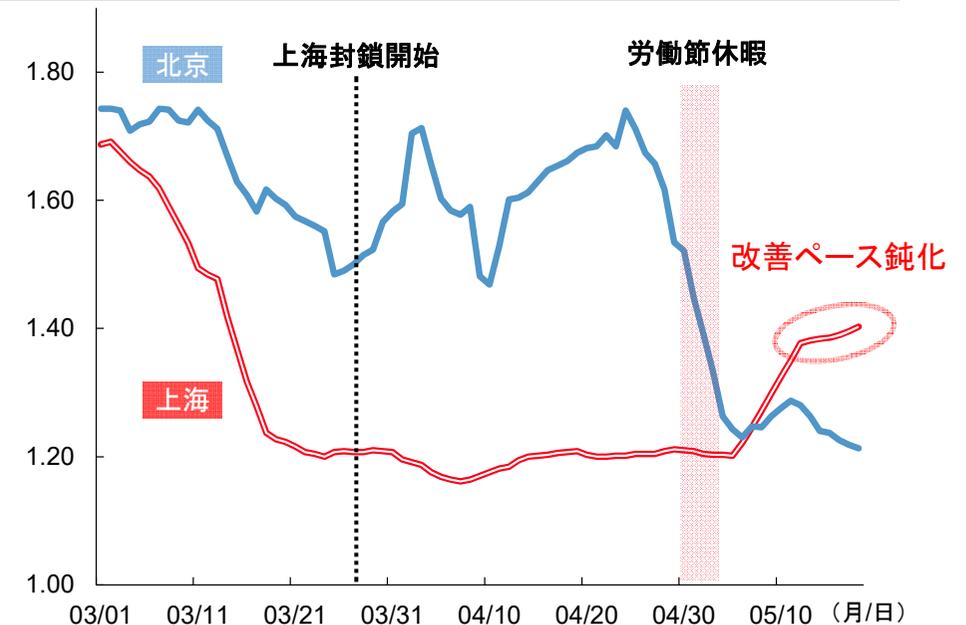
- 上海を除く新規感染者数は下げ渋り
  - 北京や天津のほか、河南省や四川省などで散発的な感染を確認。感染力の強いオミクロン株の完全な封じ込めが難しいことを示唆
- 直近1週間の上海の市中感染者はほぼゼロ(5/19のみ3名確認)
  - 上海市政府は5/16から商業施設の営業再開を段階的に許可。5/22以降には市民の外出制限を順次解除
  - 一方で5月中はバブル方式の操業が続けられるなど制約下の回復であり、交通量の回復ペースは足元で鈍化

## 国内新規感染者数



(注)無症状感染者を含む。7日間移動平均。直近は5月18日  
 (出所)国家衛生健康委員会、CEIC data より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

## 交通混雑指数



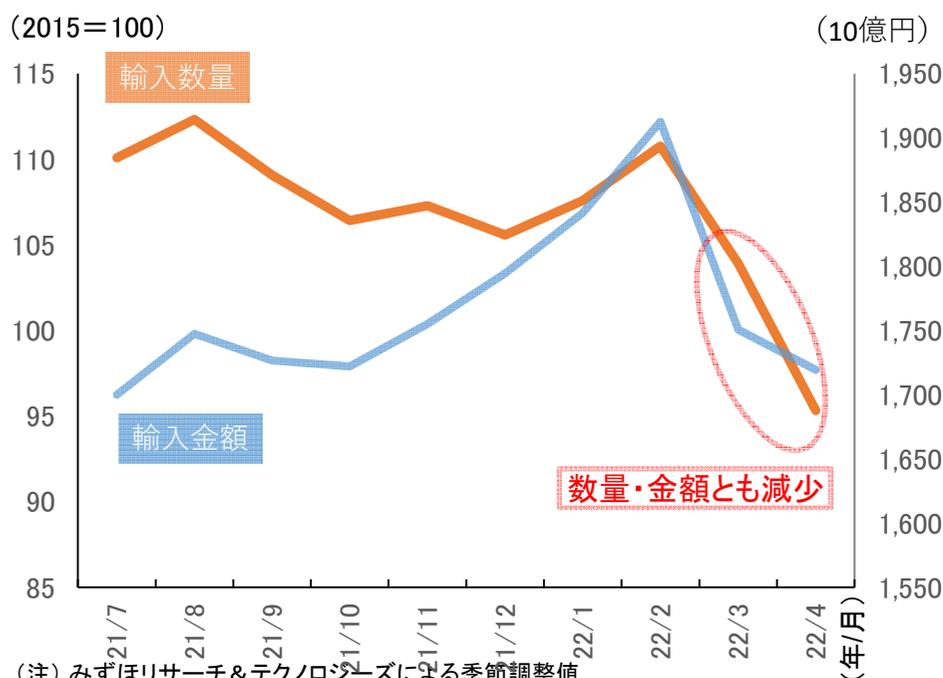
(注)全く障害のない状態での到達時間を1とした場合の実際の到達時間。

7日間移動平均。直近は5月18日  
 (出所)高德地図、Wind より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

## 中国の感染動向:日本の貿易統計でも中国の都市封鎖の影響を確認

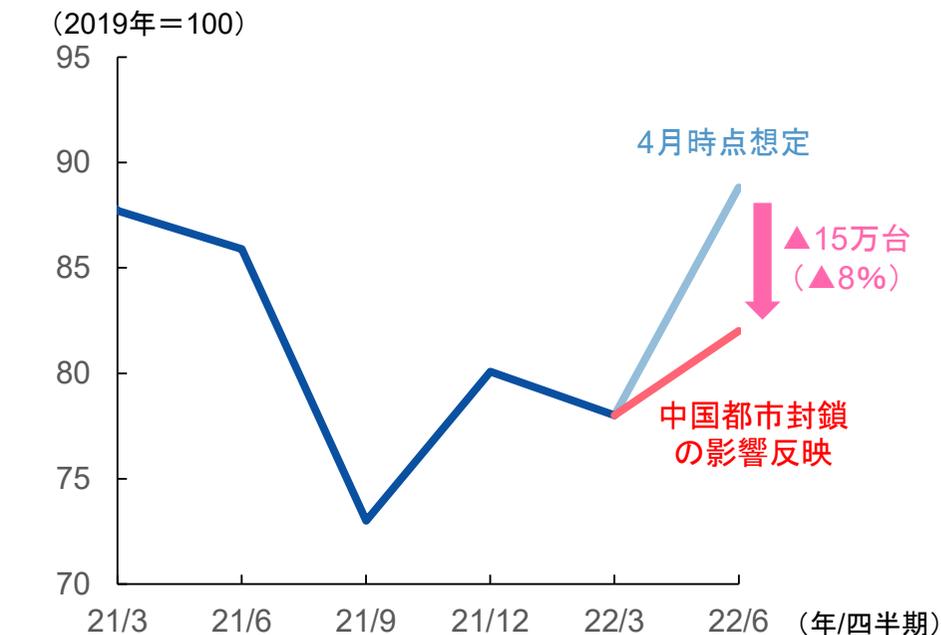
- 4月の中国からの輸入は数量・金額ともに減少
  - 深セン(3/14~20)・東莞(3/15~20)・上海(3/28~)の都市封鎖の影響があらわれた模様
  - 4月輸入金額は1~3月期対比で約1割減。金属製品や電算機類(含む部品)、自動車部品など幅広い品目で輸入金額が減少しており、自動車や電気機械の国内生産を下押し要因に
  - 実際、4~6月期の自動車生産台数は上海ロックダウン影響でおよそ15万台の減産(生産▲8%)。自動車減産が4~6月期GDPを▲0.5%程度押し下げの見込み

### 中国からの輸入数量と輸入金額(季節調整値)



(注) みずほリサーチ&テクノロジーによる季節調整値  
 (出所) 財務省「貿易統計」より、みずほリサーチ&テクノロジー作成

### 輸送機械生産の見通し



(出所) 経済産業省「鉱工業指数」、各種報道より、みずほリサーチ&テクノロジー作成

## 中国の感染動向：新規国内感染者数

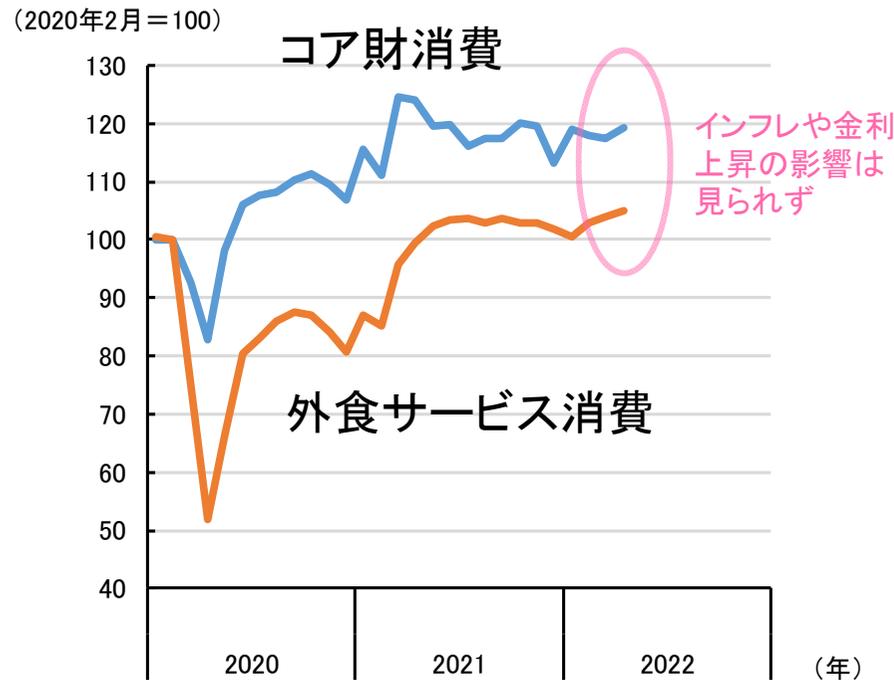
	新規国内 感染者	新規国内無 症状感染者	北京	天津	遼寧	吉林	上海	江蘇	浙江	安徽	福建	河南	広東	四川	陝西
04/25	1,908	14,821	32	2	64	126	16,012	114	38	10	0	17	1	3	0
04/26	1,818	11,096	34	0	102	100	12,309	80	32	9	1	17	0	1	0
04/27	1,494	8,857	50	0	55	127	9,764	74	22	15	1	17	0	2	1
04/28	5,646	4,817	49	0	91	56	9,970	49	23	23	1	6	14	5	0
04/29	1,410	8,280	52	0	85	42	9,196	20	25	19	0	5	42	36	0
04/30	916	6,637	59	1	47	31	7,189	9	18	9	0	9	21	10	0
05/01	846	6,329	39	0	96	20	6,804	16	18	0	1	5	18	6	0
05/02	368	5,483	59	0	82	21	5,514	13	34	1	3	6	10	1	0
05/03	353	4,916	51	0	128	40	4,831	25	20	1	1	44	12	2	0
05/04	360	4,488	50	0	100	22	4,466	29	34	0	0	40	17	1	0
05/05	356	4,083	72	0	61	14	4,088	48	24	0	1	79	8	0	0
05/06	345	4,090	49	0	99	23	4,039	70	18	2	0	98	8	3	0
05/07	319	3,924	62	0	85	21	3,840	61	27	0	0	101	22	1	0
05/08	401	3,623	44	0	50	3	3,717	62	17	0	0	60	39	0	0
05/09	349	2,905	71	0	53	6	2,858	55	9	0	1	116	18	3	0
05/10	302	1,335	35	0	60	4	1,289	49	7	1	2	88	20	9	0
05/11	222	1,519	45	0	85	5	1,343	47	20	0	0	98	4	25	0
05/12	312	1,964	47	1	58	0	1,929	35	4	0	0	43	13	96	1
05/13	253	1,578	55	2	33	1	1,541	17	2	1	1	47	5	91	0
05/14	226	1,372	34	0	18	2	1,258	9	3	7	0	29	1	207	0
05/15	140	966	49	4	11	3	896	2	0	8	0	21	4	88	0
05/16	162	829	44	30	0	11	777	1	1	1	1	33	0	87	0
05/17	227	921	60	45	1	11	799	4	1	15	0	10	1	199	0
05/18	191	768	53	29	3	19	671	2	0	12	0	20	2	148	0
05/19	176	857	56	15	2	11	787	0	1	6	0	28	3	122	0
05/20	181	885	68	23	4	7	819	1	2	5	0	39	2	94	0
05/21	157	622	60	44	1	10	593	1	1	4	1	18	1	44	1

(注)新規国内無症状感染者と主要省別新規感染者数(無症状を含む)は、当日の新規国内感染確定者を差し引いた人数  
(出所)国家衛生健康委員会、CEIC data より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

# 米国：小売売上高や住宅着工は、インフレや金利上昇による落ち込みみられず

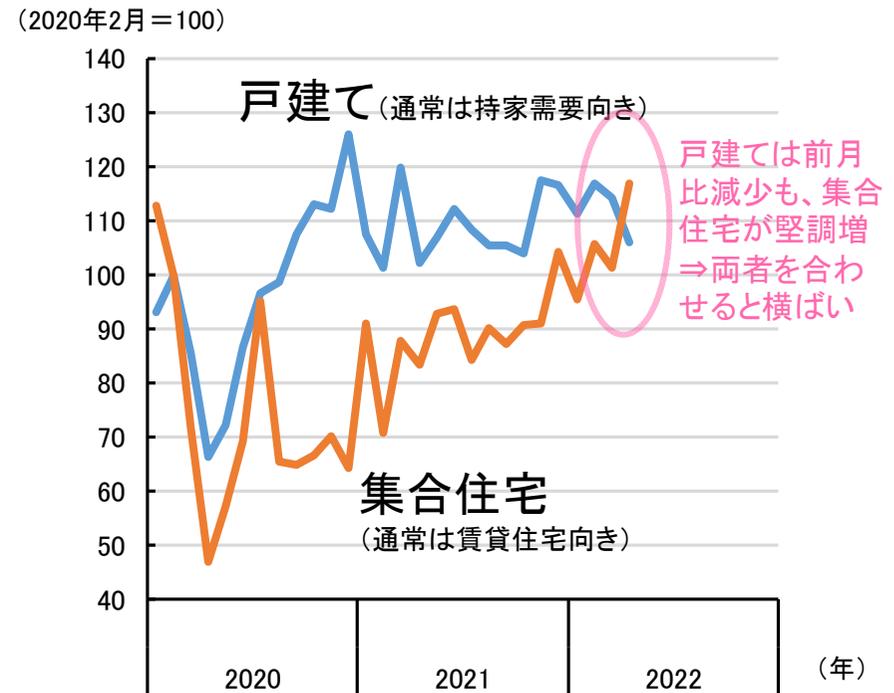
- 4月小売売上高は前月比+0.9%と拡大
    - 価格上昇の影響を考慮した実質ベースのコア財消費は同+1.0%と強い伸び。外食サービスも拡大
  - 4月住宅着工は横ばい推移
    - 戸建て住宅は減少も、集合住宅へのシフトが進展。住宅価格の高騰で賃貸需要が強まる動きを反映
- ⇒インフレや金利上昇で消費者マインドは悪化も、現時点で家計関連支出の悪化は確認できず

## 米コア財消費と外食サービス消費(実質ベース)



(注)4月は小売と消費者物価指数から推計  
(出所)米国商務省、米国労働省より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

## 米住宅着工

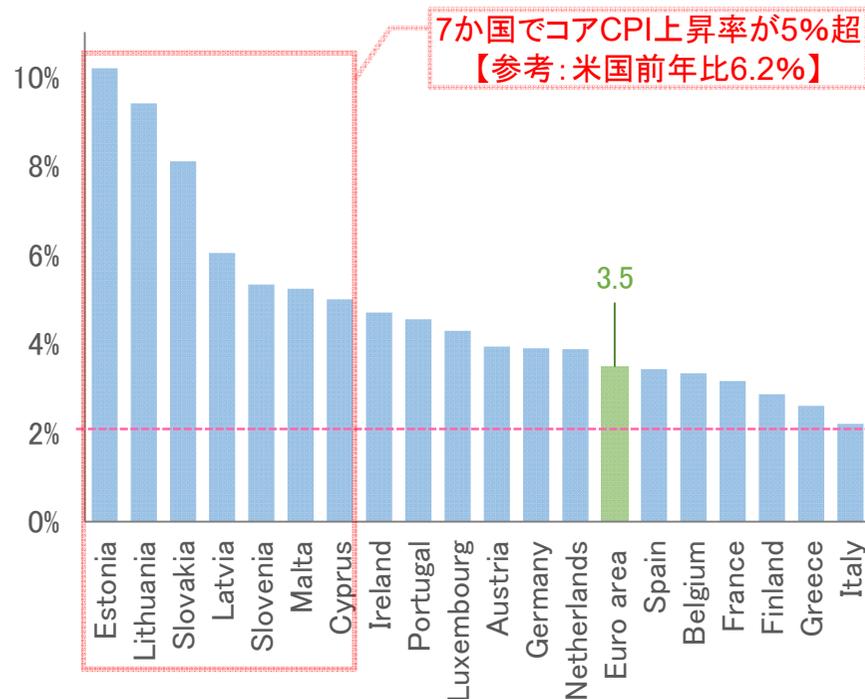


(注)4月の実績：戸建て=年率110万戸、集合住宅=年率62.4万戸  
(出所)米国商務省より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

## 欧州：東欧諸国を中心に物価上昇が加速。ECBはインフレ抑制に軸足をシフト

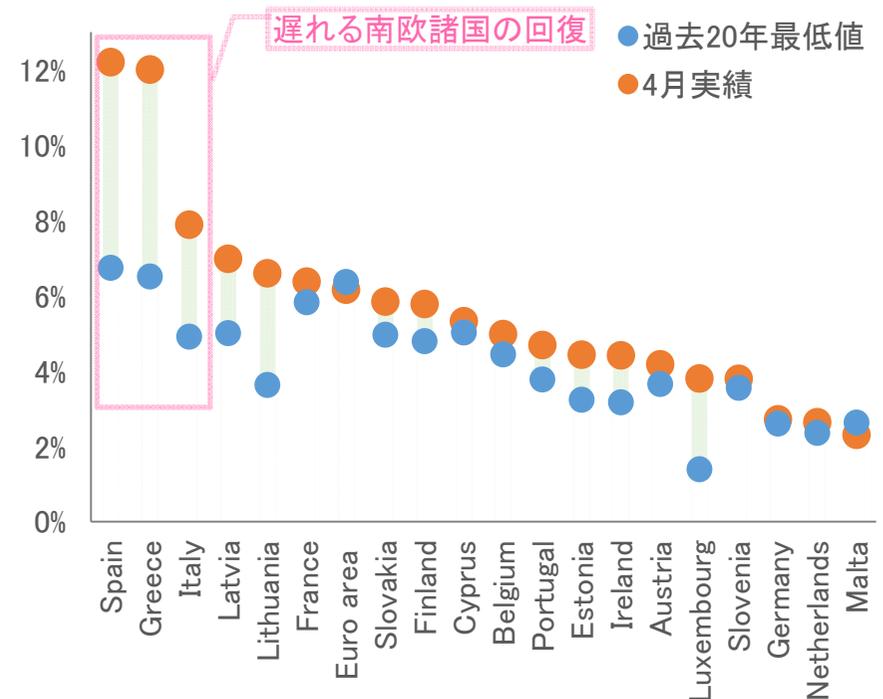
- 4月のユーロ圏消費者物価(確報)は前年比7.4%と過去最高を記録
  - 食料・エネルギーを除くコア指数も同3.5%と物価目標を大きく上回る。とりわけ加盟国の中でも小国のインフレ高進が鮮明。ECB理事会メンバー内でも金融緩和の正常化を支持する意見広がる
- ユーロ圏経済の南北格差が引き続き残存
  - ウクライナ侵攻の影響に加え、南欧諸国における雇用回復の鈍さに目配りした金融政策運営が基本線

### ユーロ圏：国別コア消費者物価上昇率



(出所) Eurostatより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

### ユーロ圏：国別失業率

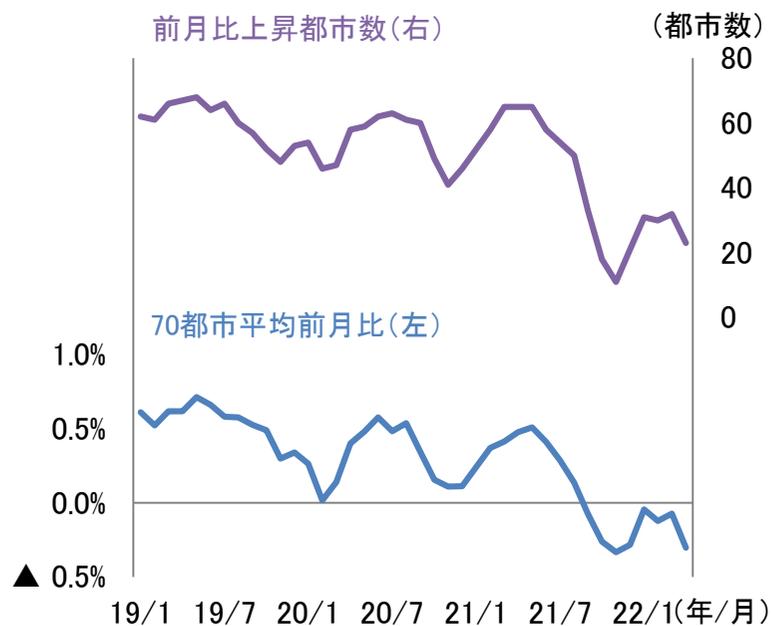


(出所) Eurostatより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

## 中国：下げ止まりの兆候があった中国不動産価格は再び下落

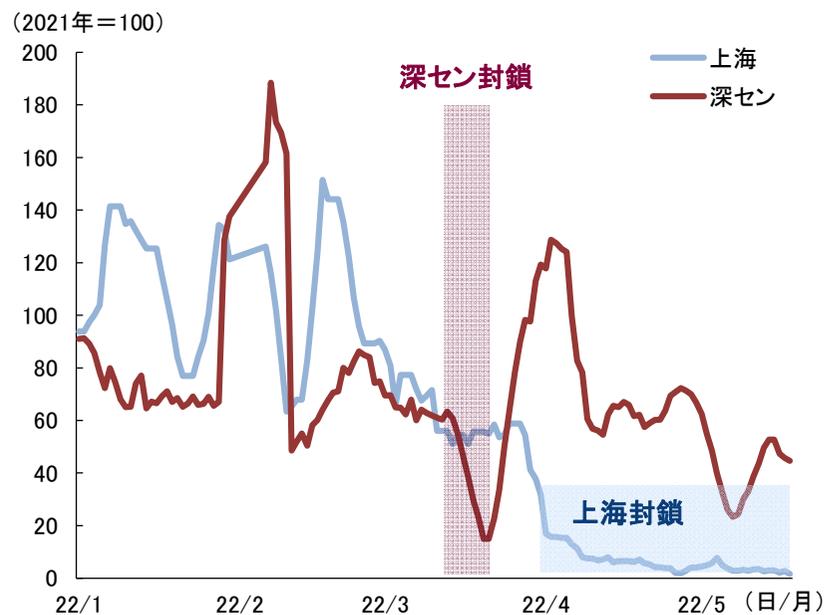
- 4月の新築住宅価格(70都市平均)は前月比▲0.3%と再び低下幅が拡大。上昇都市数も23へ減少
  - 不動産関連規制の緩やかな緩和をうけて下げ止まりつつあったが、上海等での感染拡大をうけて再び悪化
  - ロックダウン以降、上海での成約件数は平時の約5%程度まで落ち込み
- 政府は開発業者向け融資規制こそ継続も、住宅ローン金利引下げや頭金規制緩和等の追加対応でテコ入れに動く
  - 住宅ローン金利は1軒目購入者(=あくまで実需喚起が狙い)に対して下限を20bps引下げ
  - 上海の都市封鎖解除ならびに他地域での感染抑え込みを受けて、不動産投資は年央の下げ止まりを見込む

### 新築不動産価格(前月比)



(出所) 中国国家统计局、CEICよりみずほリサーチ&テクノロジーズ作成

### 住宅売買成約件数(日次データ)

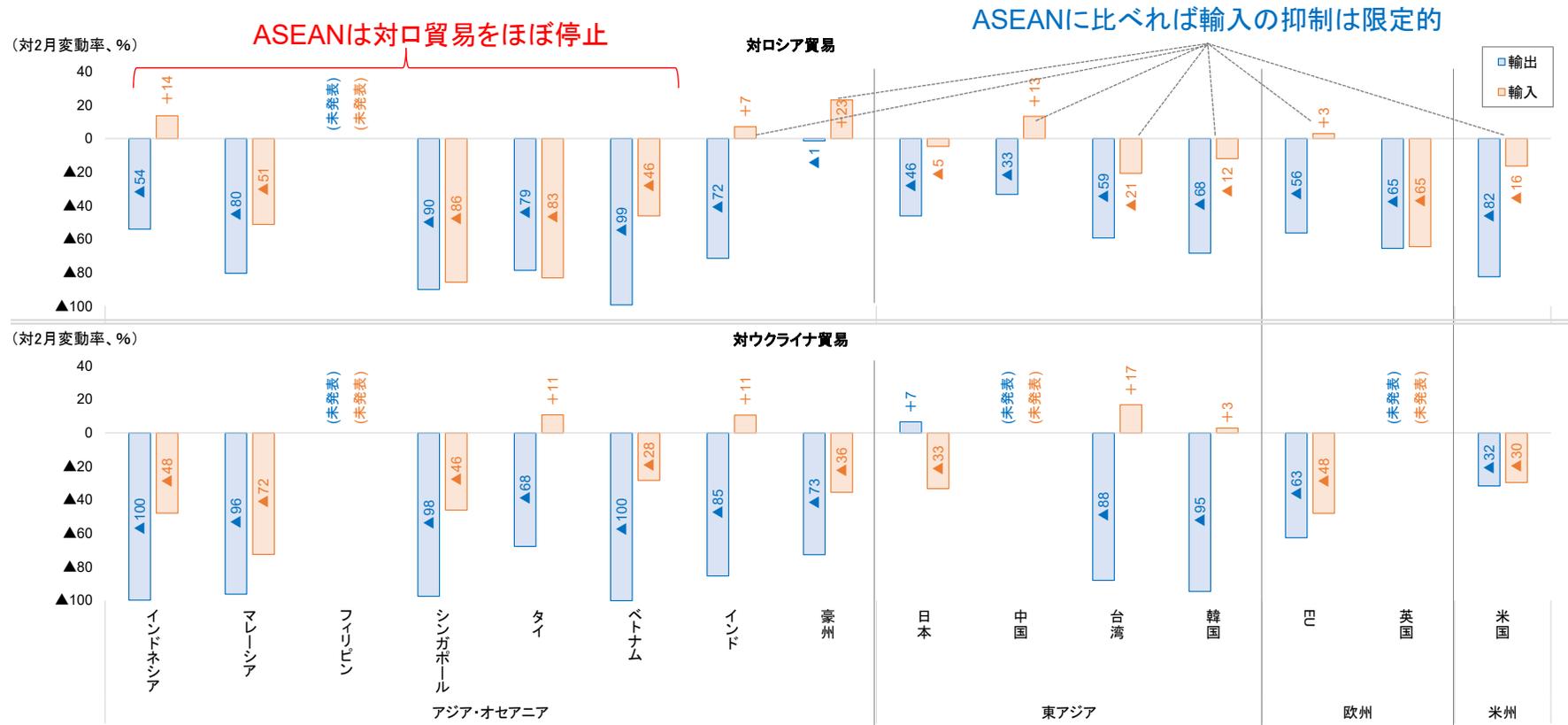


(出所) 中国国家统计局、CEICよりみずほリサーチ&テクノロジーズ作成

# アジア:3月にASEANは対露貿易をほぼ停止。一方、その他主要国は貿易を継続

- 3月のロシア・ウクライナ向けの貿易は、前月対比で大きく悪化。ただし、その落ち方は国によって差異
  - ASEANは対ロシアの貿易をほぼ全量停止。一方、インド、オーストラリア、東アジア、米国では、貿易額自体は減少傾向にあるが、ASEANに比べれば輸入の抑制は限定的
  - インドは4月の対露輸入をさらに拡大との報道。インフレ加速下、割安価格での原油調達増が背景とみられる

## 対ロシア・ウクライナ貿易の動向(前月比、直近2022年3月)



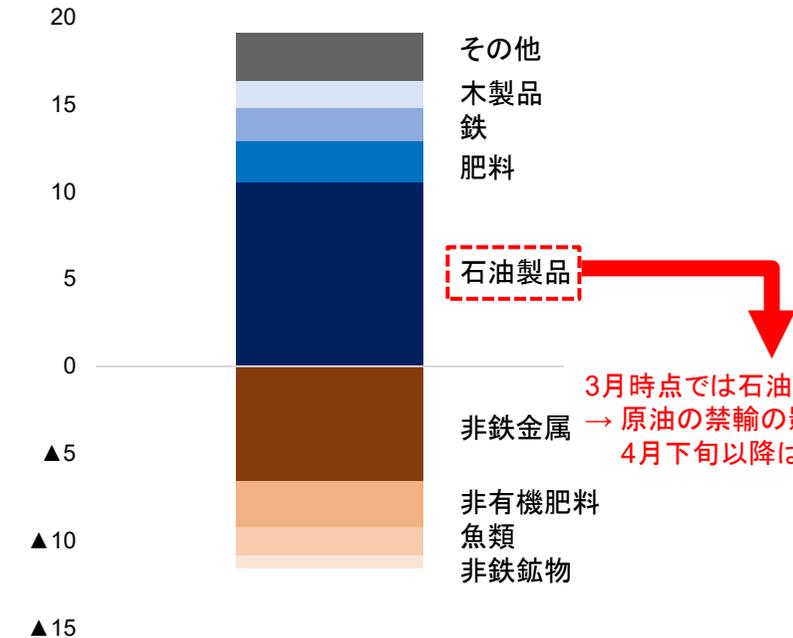
(出所)各国統計より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

## アジア: ASEANはロシアへの資源依存が低く、脱ロシアが比較的容易

- 米国のロシアからの輸入の伸びの内訳(3月時点の前年同月比、前頁の指標とは異なる)をみると、非鉄金属や非有機肥料の輸入は減少しているものの、石油製品が全体を押し上げ
  - 米国では、3月8日にロシア産のエネルギー資源(原油、LNG、石炭)の輸入を禁止する大統領令に署名し、即日発効。ただし、その時点で成立していた輸入契約分については、45日間の猶予が設けられたため、禁輸の影響が本格化するのは4月下旬以降となる見込み
- ASEANは、ロシアからの輸入に占める資源の割合が低く、輸入を停止しやすい構造となっている

### 米国のロシアからの輸入内訳(3月時点前年同期比)

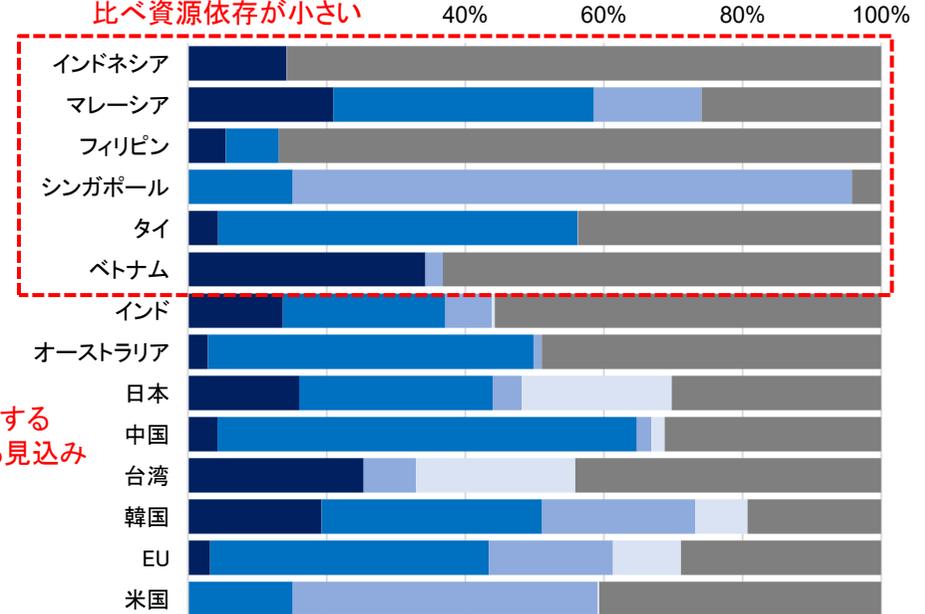
(前年比寄与度、%PT)



3月時点では石油は増加  
→ 原油の禁輸の影響が本格化する  
4月下旬以降は減少に転じる見込み

### 各国のロシアからの輸入に占める資源の割合

ASEANは、欧米・東アジアに  
比べ資源依存が小さい



■石炭 ■原油 ■石油製品 ■天然ガス ■その他

(出所)各国統計より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

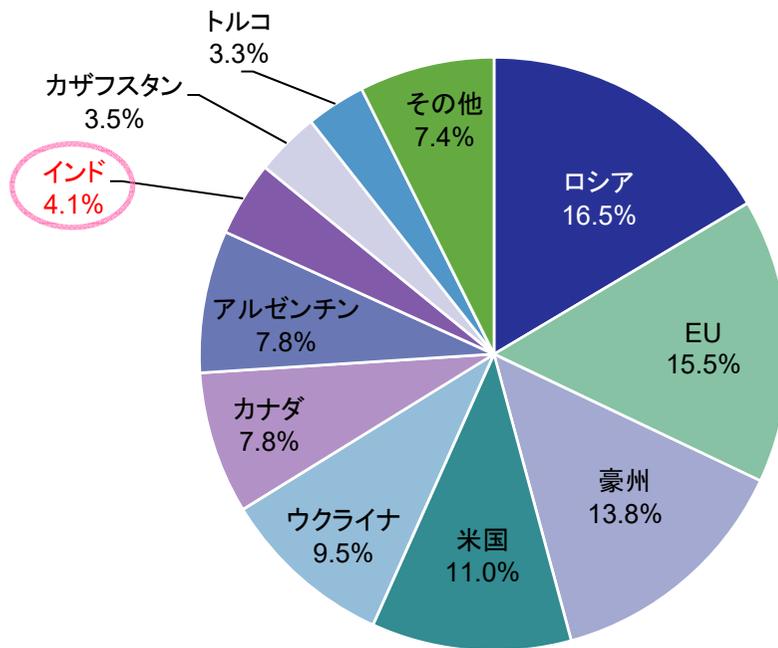
(出所)UN Comtradeより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

## アジア: インドの小麦輸出停止による影響は限定的

### ■ インドは5/13に小麦の輸出禁止措置を決定

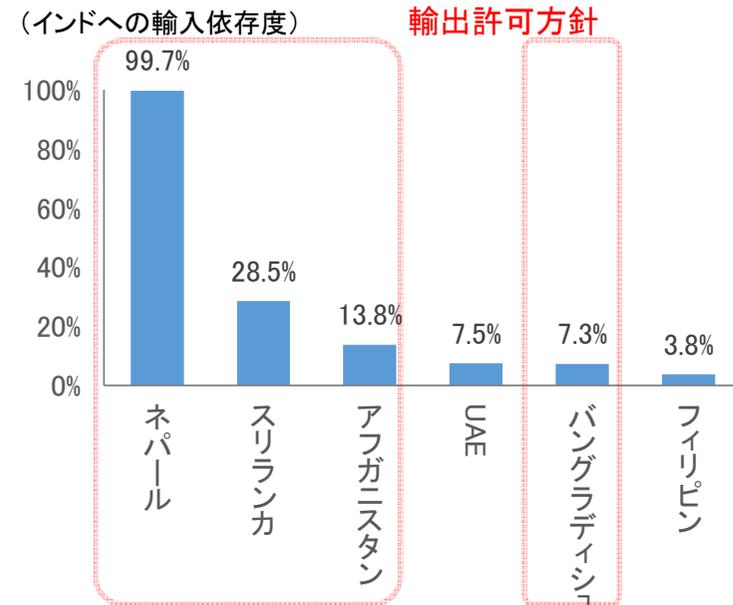
- ウクライナ情勢を受けて輸出拡大に意欲を示していたが、熱波による収穫減少懸念から国内価格が高騰し、路線転換した格好
- インドは世界第2位の小麦生産国だが、世界輸出に占めるインドのシェアは4%程度。また既に発行された信用状の裏付けがあり、食料安全保障上必要とされる国への輸出は許可する方針で、ネパールやスリランカなどへの影響は限られる見込み

### 小麦の世界輸出シェア



(出所) 米国農務省より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

### 主な輸出先におけるインドへの輸入依存度



(注) 2020年ベース。スリランカ、フィリピンは2021年。バングラディッシュ、アフガニスタン、UAE、ネパールの輸入総額はObservatory of Economic Complexity (OEC)ベースの金額、インドネシアは未掲載

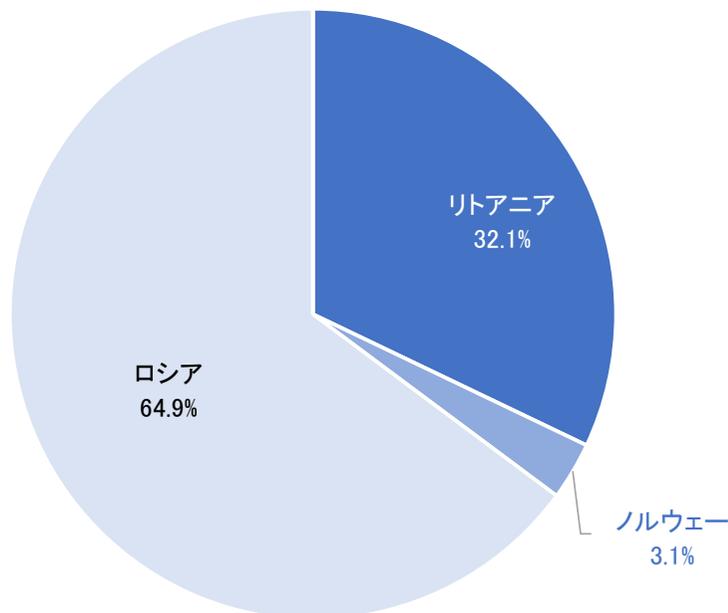
(出所) UN Comtrade、Observatory of Economic Complexity (OEC)より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

# ウクライナ情勢：東部の戦闘継続。ロシアはフィンランドへの天然ガス供給を停止

- ドンバス地域の戦闘継続。停戦交渉は進展せず（「いかなる形でも行われていない」ロシア側交渉官、5/17）
- ロシアはルーブル決済拒否を理由にフィンランドへのガス供給停止を通告
  - ガス供給停止はポーランド・ブルアリアに続いて3か国目。フィンランドのロシア依存度は2021年時点6割強と高いものの、ガス輸入の100%がLNGで米国やノルウェーからの代替調達に目途がたちつつあることが強気の背景
  - EUは既存契約に限りロシアの求めるルーブル建て決済を容認（5/15）。「お墨付き」を得たことで、独伊などロシア依存の大きい国はルーブル決済に対応し輸入継続⇒天然ガス価格は安定推移

## フィンランドの天然ガス輸入先

輸入の100%がLNG。ロシアからの輸入禁止をしたリトアニア（＝米国产LNG）やノルウェーからの代替調達に目途



（出所）UN COMTRADEより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

## 欧州の天然ガス価格

（EUR/MWh）

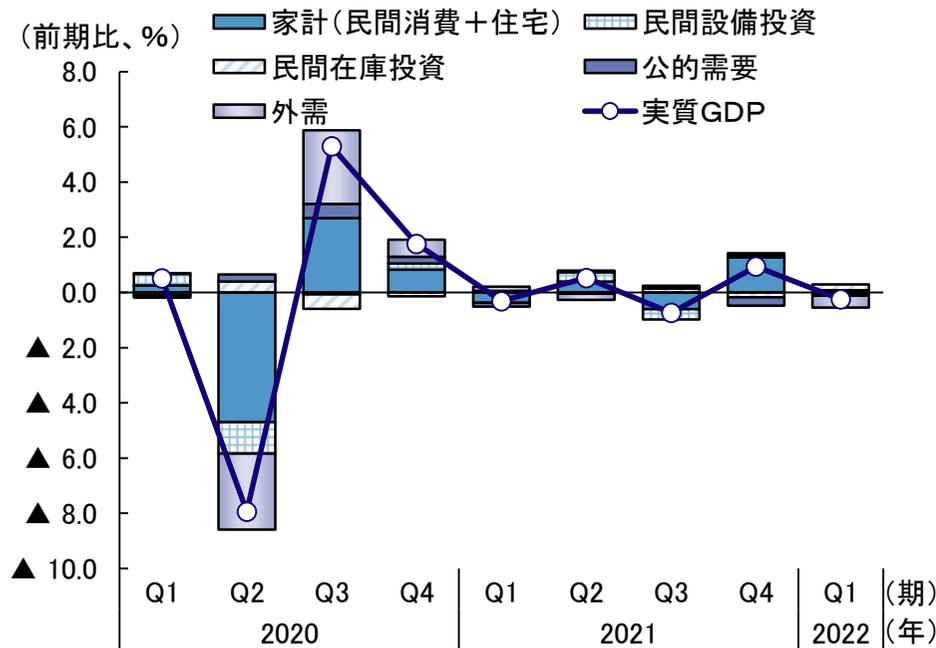


（出所）Bloombergより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

# 日本:1~3月期はマイナス成長。4~6月期は回復に向かうも回復ペースは鈍化

- 1~3月期1次QEは、感染第6波が下押しし前期比▲0.2%(年率▲1.0%)とマイナス成長(想定対比上振れ)
  - 対人接触型サービスなど個人消費の低迷が継続したほか、工場操業の一時停止により自動車等の生産が抑制されたことがマイナス要因。大幅な公共投資の減少、輸入の増加(ワクチン向けの医薬品等)も下押し
  - 4~6月期は交易条件の悪化による企業・家計の負担増や中国ロックダウンが下押し要因になるものの、人出増を受けて対人サービスなど個人消費を中心に回復に向かう見通し。現時点で前期比+0.9%(年率+3.5%)を予測
  - 4~6月期は中国感染影響で減速も、7~9月期以降は生産回復を予想。見通し(年度成長率)への影響は限定的

## 2022年1~3月期1次QE



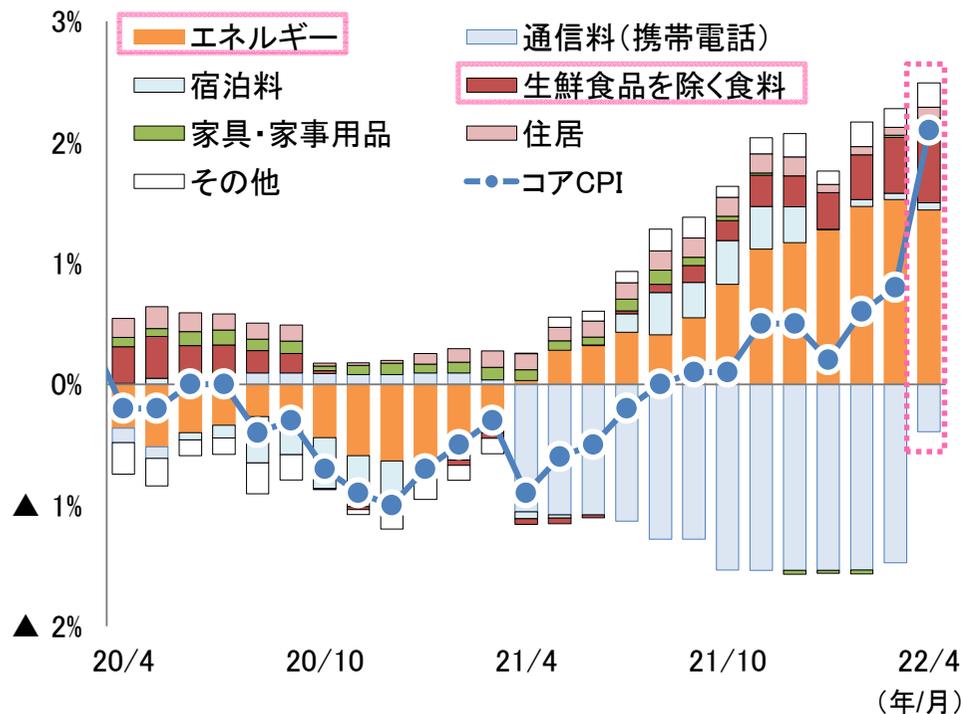
(注)右表は言及のない限り実質前期比、( )内はGDP成長率への寄与度。2022年4~6月期は予測値(出所)内閣府「四半期別GDP速報」より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

	2021 4~6	7~9	10~12	2022 1~3	2022 4~6
実質GDP	0.5	▲0.7	0.9	▲0.2	0.9
(前期比年率)	2.1	▲2.9	3.8	▲1.0	3.5
(前年比)	7.3	1.2	0.4	0.2	0.8
内需	0.8	▲0.8	0.9	0.2	0.9
	(0.8)	(▲0.8)	(0.8)	(0.2)	(0.9)
民需	1.1	▲1.1	1.6	0.3	1.0
	(0.8)	(▲0.8)	(1.1)	(0.2)	(0.7)
個人消費	0.7	▲1.0	2.5	▲0.0	1.2
住宅投資	1.0	▲1.7	▲1.2	▲1.1	▲1.1
設備投資	2.2	▲2.4	0.4	0.5	0.5
在庫投資	(0.1)	(0.1)	(▲0.2)	(0.2)	(0.0)
公需	▲0.2	0.0	▲1.1	▲0.2	0.7
	(▲0.0)	(0.0)	(▲0.3)	(▲0.1)	(0.2)
政府消費	0.8	1.1	▲0.3	0.6	0.5
公共投資	▲3.7	▲3.8	▲4.7	▲3.6	1.2
外需	(▲0.2)	(0.1)	(0.1)	(▲0.4)	(▲0.0)
輸出	2.8	▲0.3	0.9	1.1	▲1.5
輸入	4.3	▲0.8	0.3	3.4	▲1.1
名目GDP	0.3	▲1.0	0.3	0.1	▲0.0
GDPデフレーター(前年比)	▲1.1	▲1.2	▲1.3	▲0.4	▲1.5

# 日本:4月全国コアCPIは2%台に到達。エネルギーに加え食料品が上昇をけん引

- 4月の生鮮食品除くコアCPIは前年比+2.1%と13年7カ月ぶりの2%超え(消費税の影響を除く)
  - エネルギーに加え、食料品価格が物価を押し上げ。なお激変緩和措置はコアCPIを▲0.4%程度押し下げた模様
  - 通信料の下押しは4月に▲0.4%Ptまで低下。8月に▲0.2%Pt、10月に±0.0%Ptと今後も段階的に影響が減衰
  - 個別品目では国債商品市況の高騰を反映し、食用油やマヨネーズ、コーヒー豆の価格が大幅上昇。食用油は灯油・都市ガスを上回り品目別上昇率トップに

## コアCPIの寄与度分解



(出所)総務省「消費者物価指数」より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

## 4月の上昇率上位10品目

順位	品目	前年比
1	食用油	+36.5%
2	灯油	+26.1%
3	マヨネーズ	+24.3%
4	都市ガス代	+23.7%
5	コーヒー豆	+21.8%
6	電気代	+21.0%
7	調理カレー	+16.5%
8	電気冷蔵庫	+16.0%
9	紅茶	+15.9%
10	ガソリン	+15.7%

(注)コアCPI構成品目のうち上位10品目

(出所)総務省「消費者物価指数」より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

## 金融市場:コスト高による企業業績圧迫懸念から、米国株は一時大幅下落

- 米10年国債利回りは、米 4月コア小売売上高(5/17)が市場予想を上回り、インフレ下でも景気は底堅いとの評価から一時上昇も、その後の軟調な経済指標を受けた米景気減速懸念や、米株価の大幅下落により、低下
- ダウ平均は、米大手小売企業がコスト高を背景に低調な決算と業績見通しの下方修正を発表し、コスト高による企業業績圧迫懸念から一時大幅下落も、足元やや反発。日経平均は、米国株に連動する形で軟調に推移
- ドル円相場は、米景気減速懸念や米株価下落による米金利低下から、1ドル=127円台まで円高・ドル安に。ユーロドル相場は、ラガルドECB総裁の利上げに関する発言から、独金利上昇、1ユーロ=1.06ドル台までユーロ高・ドル安に

### 主要マーケットの推移



(出所) Bloombergより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

## 巻末資料 主要経済指標一覧(実績)

### 【先週発表分】

日付	経済指標等		今回実績	予想	前回	
5/16(月)	日	国内企業物価指数(4月)	前月比 +1.2%	+0.8%	R↑ +0.9%	
			前年比 +10.0%	+9.4%	R↑ +9.7%	
	中	鉱工業生産(4月)	前年比 ▲2.9%	+0.5%	+5.0%	
5/17(火)	米	ニューヨーク連銀製造業業況指数(5月)	▲11.6	+15.0	+24.6	
	日	第3次産業活動指数(3月)	前月比 +1.3%	+1.1%	▲1.3%	
		パウエルFRB議長討論会(ウォールストリートジャーナル)				
			鉱工業生産指数(4月)	前月比 +1.1%	+0.5%	+0.9%
			設備稼働率(4月)	79.0%	78.6%	R↓ 78.2%
	小売売上高(4月)	前月比 +0.9%	+1.0%	R↑ +1.4%		
5/18(水)	日	GDP(1~3月期1次速報)	前期比 ▲0.2%	▲0.4%	R↓ 10~12月期 +0.9%	
			前月比 ▲1.6%	N.A.	+1.5%	
	米	住宅着工件数(4月)	年率 172.4万件	175.6万件	R↓ 172.8万件	
		住宅着工許可件数(4月)	年率 181.9万件	181.4万件	R↓ 187.0万件	
5/19(木)	日	通関収支	原数値 ▲8,392億円	▲11,500億円	R↓ ▲4,141億円	
		貿易統計(4月)	輸出	前年比 +12.5%	+13.9%	+14.7%
			輸入	前年比 +28.2%	+35.0%	+31.2%
		機械受注[船舶・電力を除く民需](3月)	前月比 +7.1%	+3.9%	▲9.8%	
			前年比 +7.6%	+3.3%	+4.3%	
	米	中古住宅販売件数(4月)	年率 561万件	564万件	R↓ 575万件	
	比	フィラデルフィア連銀製造業	+2.6	+15.0	+17.6	
フィリピン金融政策決定会合 ・3年半ぶりに政策金利を引き上げ、2.25%にすることを決定した						
5/20(金)	日	消費者物価(4月全国)	前年比 +2.5%	+2.5%	+1.2%	
		[除・生鮮食品]	前年比 +2.1%	+2.0%	+0.8%	

### 【今週発表分】

5/23(月)	独	i f o 景況感指数(5月)	93.0	91.4	91.8
---------	---	-----------------	------	------	------

(注)今週月曜日のデータ。予想は、情報ベンダー(Bloomberg、Reuters等)の取りまとめた予想コンセンサス。米国の経済指標は特に断りのない限り季調値。

Rは改定値(R↑:上方修正、R↓:下方修正)。日:日本、米:米国、欧:欧州、英:英国、独:ドイツ、仏:フランス、中:中国、韓:韓国、印:インド、尼:インドネシア、

泰:タイ、比:フィリピン、伯:ブラジル、馬:マレーシア、亜:アルゼンチン

(出所)Bloomberg、Reuters等より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

## 巻末資料 主要経済指標一覧(予定)

### 【今週発表分】

日付	経済指標等	予想	前回
5/24(火)	米 新築住宅販売件数(4月) 年率	75.0万件	76.3万件
	欧 ユーロ圏合成PMI(5月速報)	55.0	55.8
	米 パウエルFRB議長挨拶(NCAIED)2022経済サミット)		
	尼 インドネシア金融政策決定会合(23・24日)		
5/25(水)	日 黒田日銀総裁挨拶(日本銀行金融研究所主催2022年国際コンファランス)		
	内閣府月例経済報告(5月)		
	耐久財受注(4月) 前月比	+0.6%	+1.1%
5/26(木)	FOMC議事録(5/3・4分)		
	米 GDP(1~3月期暫定) 前期比年率	▲1.3%	1~3月期速報 ▲1.4%
	中古住宅販売仮契約指数(4月) 前月比	▲2.0%	▲1.2%
	韓 韓国金融政策決定会合		
5/27(金)	日 消費者物価(5月都区部) 前年比	+2.5% R↓	+2.4%
	[除・生鮮食品] 前年比	+2.0%	+1.9%
	米 個人所得(4月) 前月比	+0.5%	+0.5%
	消費支出(4月) 前月比	+0.7%	+1.1%
	コアPCEデフレーター(4月) 前年比	+4.9%	+5.2%
	ミシガン大消費者信頼感指数(5月確報)	59.1	5月速報 59.1

(注) 今週月曜日のデータ。予想は、情報ベンダー(Bloomberg、Reuters等)の取りまとめた予想コンセンサス。米国の経済指標は特に断りのない限り季調値。

Rは改定値(R↑:上方修正、R↓:下方修正)。日:日本、米:米国、欧:欧州、英:英国、独:ドイツ、仏:フランス、中:中国、韓:韓国、印:インド、尼:インドネシア、

泰:タイ、比:フィリピン、伯:ブラジル、馬:マレーシア、亜:アルゼンチン

(出所) Bloomberg、Reuters等より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成



## 巻末資料2-2 日本 四半期スケジュール(7~9月)

	7月	8月	9月
日本	1 新車販売台数(6月)	1 新車販売台数(7月)	1 法人企業統計調査(4~6月期)
	日銀短観(6月調査)	5 家計調査(6月)	新車販売台数(8月)
	労働力調査(5月)	毎月勤労統計(6月速報)	6 家計調査(7月)
	消費者物価(6月都区部)	景気動向指数(6月速報)	毎月勤労統計(7月速報)
	5 毎月勤労統計(5月速報)	8 国際収支(6月速報)	8 国際収支(7月速報)
	10年利付国債入札	景気ウォッチャー調査(7月)	GDP(4~6月期2次速報)
	7 景気動向指数(5月速報)	9 マネーストック(7月速報)	景気ウォッチャー調査(8月)
	30年利付国債入札	10 企業物価指数(7月)	9 マネーストック(8月速報)
	8 国際収支(5月速報)	15 設備稼働率(6月)	13 企業物価指数(8月)
	景気ウォッチャー調査(6月)	GDP(4~6月期1次速報)	法人企業景気予測調査(7~9月期)
	家計調査(5月)	16 第3次産業活動指数(6月)	14 設備稼働率(7月)
	11 マネーストック(6月速報)	17 貿易統計(7月)	機械受注統計(7月)
	機械受注統計(5月)	機械受注統計(6月)	15 貿易統計(8月)
	12 企業物価指数(6月)	19 消費者物価(7月全国)	第3次産業活動指数(7月)
	5年利付国債入札	26 消費者物価(8月都区部)	20 資金循環統計(4~6月期速報)
	14 設備稼働率(5月)	30 労働力調査(7月)	消費者物価(8月全国)
	20年利付国債入札	31 鉱工業生産(7月速報)	22 日銀金融政策決定会合(21・22日)
	15 第3次産業活動指数(5月)	商業動態統計(7月速報)	日銀総裁定例記者会見
	21 日銀金融政策決定会合(20・21日)		30 鉱工業生産(8月速報)
	日銀総裁定例記者会見		商業動態統計(8月速報)
	日銀「経済・物価情勢の展望」(基本的見解)		労働力調査(8月)
	貿易統計(6月)		
	22 消費者物価(6月全国)		
	26 40年利付国債入札		
	28 2年利付国債入札		
	29 鉱工業生産(6月速報)		
	商業動態統計(6月速報)		
	労働力調査(6月)		
	消費者物価(7月都区部)		
	消費動向調査(7月)		

(注) 予定は変更の可能性があります

(出所) 各種資料より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

## 巻末資料2-3 米国・欧州 四半期スケジュール(7~9月)

	7月	8月	9月
米 国	1 製造業ISM指数(6月)	1 製造業ISM指数(7月)	1 製造業ISM指数(8月)
	6 非製造業ISM指数(6月) FOMC議事録(6/14・15分)	3 非製造業ISM指数(7月)	労働生産性(4~6月期改訂)
	7 貿易収支(5月)	4 貿易収支(6月)	2 雇用統計(8月)
	8 雇用統計(6月)	5 雇用統計(7月)	6 非製造業ISM指数(8月)
	11 3年国債入札	9 労働生産性(4~6月期暫定)	7 貿易収支(7月)
	12 10年国債入札	3年国債入札	ページブック(地区連銀経済報告)
	13 連邦財政収支(6月)	10 連邦財政収支(7月)	12 3年国債入札
	CPI(6月)	CPI(7月)	10年国債入札
	ページブック(地区連銀経済報告)	10年国債入札	13 連邦財政収支(8月)
	30年国債入札	11 PPI(7月)	CPI(8月)
	14 PPI(6月)	30年国債入札	30年国債入札
	15 ミシガン大学消費者信頼感指数(7月速報)	12 ミシガン大学消費者信頼感指数(8月速報)	14 PPI(8月)
	鉱工業生産・設備稼働率(6月)	15 ニューヨーク連銀製造業況指数(8月)	15 鉱工業生産・設備稼働率(8月)
	小売売上高(6月)	16 鉱工業生産・設備稼働率(7月)	小売売上高(8月)
	ニューヨーク連銀製造業況指数(7月)	住宅着工・許可件数(7月)	フィラデルフィア連銀製造業況指数(9月)
	19 住宅着工・許可件数(6月)	17 小売売上高(7月)	ニューヨーク連銀製造業況指数(9月)
	20 中古住宅販売件数(6月)	FOMC議事録(7/26・27分)	16 ミシガン大学消費者信頼感指数(9月速報)
	21 フィラデルフィア連銀製造業況指数(7月)	18 中古住宅販売件数(7月)	20 住宅着工・許可件数(8月)
	景気先行指数(6月)	フィラデルフィア連銀製造業況指数(8月)	21 FOMC(20・21日)
	25 2年国債入札	景気先行指数(7月)	中古住宅販売件数(8月)
	26 新築住宅販売件数(6月)	23 新築住宅販売件数(7月)	22 経常収支(4~6月期)
	カンファレンスボード消費者信頼感指数(7月)	2年国債入札	景気先行指数(8月)
	5年国債入札	24 耐久財受注(7月)	26 2年国債入札
	27 FOMC(26・27日)	5年国債入札	27 新築住宅販売件数(8月)
	耐久財受注(6月)	25 GDP(4~6月期暫定)	耐久財受注(8月)
	28 GDP(4~6月期速報)	企業収益(4~6月期暫定)	カンファレンスボード消費者信頼感指数(9月)
	7年国債入札	7年国債入札	5年国債入札
	29 ミシガン大学消費者信頼感指数(7月確報)	26 ミシガン大学消費者信頼感指数(8月確報)	28 7年国債入札
	個人所得・消費支出(6月)	個人所得・消費支出(7月)	29 GDP(4~6月期確定)
雇用コスト指数(4~6月期)	30 カンファレンスボード消費者信頼感指数(8月)	企業収益(4~6月期改訂)	
シカゴPMI指数(7月)	31 シカゴPMI指数(8月)	30 ミシガン大学消費者信頼感指数(9月確報)	
		個人所得・消費支出(8月)	
		シカゴPMI指数(9月)	
欧 州	21 ECB政策理事会	4 英中銀金融政策委員会(3・4日)	8 ECB政策理事会
			15 英中銀金融政策委員会(14・15日)

(注) 予定は変更の可能性があります

(出所) 各種資料より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

・米国経済	小野亮 小野寺莉乃	makoto.ono@mizuho-rt.co.jp rino.onodera@mizuho-rt.co.jp
・欧州経済	小林公司 川畑大地	koji8.kobayashi@mizuho-rt.co.jp daichi.kawabata@mizuho-rt.co.jp
・中国経済	伊藤秀樹 月岡直樹	hideki.ito@mizuho-rt.co.jp naoki.tsukioka@mizuho-rt.co.jp
・アジア経済	越山祐資	yusuke.koshiyama@mizuho-rt.co.jp
・新興国経済	対木さおり 田村優衣	saori.tsuiki@mizuho-rt.co.jp yui.tamura@mizuho-rt.co.jp
・日本経済	酒井才介 諏訪健太	saisuke.sakai@mizuho-rt.co.jp kenta.suwa@mizuho-rt.co.jp
・コロナ関連	服部直樹	naoki.hattori@mizuho-rt.co.jp
・金融市場	宮壽浩 坂本明日香 井上淳	hiroshi.miyazaki@mizuho-rt.co.jp asuka.sakamoto@mizuho-rt.co.jp jun.inoue@mizuho-rt.co.jp

★次回の発刊は、5月31日(火)を予定しております

本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成されておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しては、ご自身の判断にてなされますようお願い申し上げます。また、本資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。なお、当社は本情報を無償でのみ提供しております。当社からの無償の情報提供をお望みにならない場合には、配信停止を希望する旨をお知らせ願います。